

【書名】

『千葉県自然誌 別編4 千葉県植物誌』 県史51

(平成15年3月25日発行)

【正誤表】

訂正箇所	誤	正
口絵1 キヨスミミツバツツジ	kiyos <u>m</u> ense	kiyos <u>u</u> mense
口絵2 ノコギリヒゴタイ	<u>Ohba et Yoko Kimura var. nov.</u>	<u>T. Ohba et Yoko Kimura nov. prov.</u>
口絵4 ガンコラン	Nose <u>form. nov.</u>	Nose <u>nov. prov.</u>
凡例V 左26行目	<u>千葉県</u> 自然環境調査会	<u>千葉</u> 自然環境調査会
凡例V 左28行目	<u>千葉県</u> 自然環境調査会	<u>千葉</u> 自然環境調査会
凡例V 右21行目	千葉県植物誌 <u>編集</u> 同人	千葉県植物誌 <u>資料編集</u> 同人
凡例VII 左31行目	(8)葉の生存 <u>葉節</u>	(8)葉の生存 <u>季節</u>
P5 下15行目	●風散： <u>夏</u> 緑	●風散： <u>春</u> 緑
P6 11行目	●風散： <u>夏</u> 緑	●風散： <u>春</u> 緑
P49 5行目 右端	孢子囊	孢子囊 <u>群</u>
P49 7行目 右端	孢子囊	孢子囊 <u>群</u>
P49 11行目	孢子囊	孢子囊 <u>群</u>
P55 20行目 左端	ミドリ <u>ヒメワラビ</u>	ミドリ <u>ワラビ</u>
P77 9行目 右端	(<u>232</u>)	(<u>252</u>)
P77 下6行目	径3～3.5 <u>mm.</u>	径3～3.5 <u>cm.</u>
P77 下1行目	径約3 <u>mm</u> で	径約3 <u>cm</u> で
P78 6行目 右端	球果は翌年の <u>10月</u> に熟する	球果は翌年の <u>8月</u> に熟する
P78 9行目	分布：本州(<u>関東</u> 以西)	分布：本州(<u>福島</u> 県以西)
P78 9行目	淡黄花：風媒：風散	淡黄花(♂) + 紅紫花(♀) ：風媒： <u>重</u> 散
P78 10行目 左端	針葉・ <u>細</u> 鋸齒	針葉・ <u>微</u> 鋸齒

訂正箇所	誤	正
P 88 12行目	Populus x canadensis Moench (syn. Populus x euroamericana Guinier)	Populus x canadensis Moench (syn. Populus x euroamericana <u>(Dode) Guinier</u>)
P 88 25行目	Populus nigra L. var. italica <u>Moench</u>	Populus nigra L. var. italica <u>(Moench) Koehne</u> (但し、P. italica Moench (1785), P. nigra L. var. italica Duroi (1772))
P 89 下15行目	Dumort.;	Dumort.;
P 89 下12行目	Dumort.}	Dumort.}
P 92 35行目	var. yezoensis Schneid.	var. yezoensis Schneid. (但し、C. K. Schneider (1916)の種小名はSeemen (1903)のSalix jessoensis Seemen シロヤナギとhomonymと見なされるので使用できない)
P 94 下15行目	Salix graciligrans Nakai	Salix graciligrans Nakai
P 99 23行目 コイエヤナギ	出典追加	Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. 4. ser. Biol. 15:407 (1940)
P 99 下14行目 コセキヤナギ	出典追加	Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. 4. ser. Biol. 12:102 (1937)
P 141 下5行目 右端	虫媒花、果実は	虫媒花、果実は
P 154 下11行目 左端	10cm	10mm
P 186 下5行目	1997. 3. 8 坂上	1997. 3. 8 阪上
P 224 図版左下	<u>ボタンゲシ</u>	<u>ケシ(八重咲き)</u>
P 229 下12行目 右端	*ケシ	<u>(3)ケシ</u>
P 229 下8行目 右端	<u>(3)ボタンゲシ</u>	* <u>ボタンゲシ</u>
P 230 6行目	*ケシ	<u>(3)ケシ</u>
P 230 7行目 右端	追加記述	<u>八重咲きのものをボタンゲシという</u>

訂正箇所	誤	正
P 230 11行目	<u>(3)ボタンゲシ</u>	* <u>ボタンゲシ</u>
P 230 12行目	<u>標本：折目庸雄</u>	折目庸雄
P 231 下18行目	アフリカフウチョウソウ <u>Cleome chelidonii L.</u>	アフリカフウチョウソウ <u>Cleome rutidosperma DC.</u>
P 232 下14行目	H. 角片は数脈がある..... ...26. シロガラシ属	G. 角片は数脈がある H. 角果の嘴には種子がない...26. シロガラシ属 H. 角果の嘴にも種子がある.....26a. ダイコンモドキ属
P 235 下18行目	(Oeder) <u>Borlás</u>	(Oeder) <u>Borbás</u>
P 240 図版左上	<u>クロガラシ</u>	<u>ダイコンモドキ</u>
P 245 下2行目右端	<u>図p.240</u>	削除
P 246 下15行目	→ 27. ダイコン属の前に追加	→26 a. ダイコンモドキ属 <u>Hirschfeldia Moench</u> ヨーロッパに2種が分布. → (1) <u>ダイコンモドキ Hirschfeldia incana (L.) Lagr.-Foss. (syn. Synapis incana L.)</u> 図p.240 別名アレチガラシ. 沖縄, 三重県, 神奈川県などに帰化. 千葉県では富里市で採集されている. 標本: 富里市二区 1992.05.29 折目庸雄 CBM61760.
P 249 35行目	堀内(1998)で <u>仮称</u> したコカイタネツケバナの標本と	堀内(1998)で <u>紹介</u> したコカイタネツケバナの標本と
P 258 5行目	Hydrangea <u>involu</u> crata	Hydrangea <u>involu</u> clata
P 284 図版左下	<u>オオカナメモチ</u> 東京都(栽)	<u>レッドロビン(カナメモチ)</u> <u>オオカナメモチ</u> 東京都(栽)
P 285 11行目	学名がこの <u>アズマイバラ</u>	学名がこの <u>テリハノイバラ</u>
P 290 10行目 左端	<u>白花</u> ：虫媒	<u>淡緑黄花</u> ：虫媒
P 291 5行目 右端	<u>図p.284</u>	削除

訂正箇所	誤	正
P 296 4行目 左端	B. <u>花は淡黄色</u>	B. <u>旗弁は淡黄色</u>
P 296 5行目 左端	B. <u>花は一般に紅紫色</u>	B. <u>旗弁は一般に紅紫色</u>
P 296 20行目	●側向・ <u>白〜紅紫色花</u> ：	●側向・ <u>淡黄花+紅紫色花</u> ：
P 297 11行目 右端	<u>賞緑</u> ：亜低木	<u>夏緑</u> ：亜低木
P 299 下18行目	Rothia indica (L.) <u>Thuan</u>	Rothia indica (L.) <u>Druce</u>
P 310 下24行目 右端	(6)トガリバツ <u>クサ</u>	(6)トガリバツ <u>メクサ</u>
P 310 下1行目	→(6)トガリバツ <u>クサ</u>	→(6)トガリバツ <u>メクサ</u>
P 310 下1行目	<u>augusrifolium</u>	<u>angustifolium</u>
P 313 下20行目	: 397). 奥山 <u>春希</u>	: 397). 奥山 <u>春季</u>
P 320 図版左中段	<u>フヨウカタバミ</u>	<u>ハナカタバミ</u>
P 320 図版中央	<u>ハナカタバミ</u>	<u>フヨウカタバミ</u>
P 337 図版右下	成東町 <u>成東教委</u>	成東町(<u>成東教委</u>)
P 339 図版右下 左	チドリノキ	チドリノキ <u>東京都</u>
P 339 図版右下 右	<u>東京都</u>	<u>ミツデカエデ</u> <u>富山県</u>
P 341 下16行目	Sect. Euodia の前に挿入	日本には2種が野生して2種が栽培される。野生の1種はハマセンダン(ゴシュユ節)
P 341 下16行目	<u>Sect. Euodia は単葉・3出葉の種を含み日本には自生しない。例：E. lept Merr. (南支)。</u>	<u>ムニンゴシュユ節(Sect. Lepta またはSect. Euodia) には、日本の小笠原に1種ムニンゴシュユ Euodia nishimurae Koidz. が野生する。</u>
P 344 30行目	1属約 <u>10</u> 種、	<u>世界に1属16</u> 種、
P 344 35行目 右端	日本に1属 <u>16</u> 種。	日本に1属 <u>1</u> 種。
P 345 13行目	〈ヌルデ節 Sect. 2 <u>Sumacx</u> 〉	〈ヌルデ節 Sect. 2 <u>Sumac</u> 〉
P 347 12行目 右端	追加	<u>図p. 339</u>

訂正箇所	誤	正
P 347 20行目 右端	<u>採植品</u> の疑いが強い.	<u>植栽品</u> の疑いが強い.
P 349 25行目	サカキ亜目 (Torne:1992)	サカキ亜目 (Thorne:1992)
P 355 下18行目 中央	(<u>makino</u>)	(<u>Makino</u>)
P 379 20行目	スミレ var. <u>manndsurica</u>	スミレ var. <u>mandshurica</u>
P 392 30行目 右端	● <u>ヒルムシロ群綱</u> ●	ヒルムシロ群綱●
P 393 下2行目 左端	●上向・ <u>白花</u> ：	●上向・ <u>白～淡紅花</u> ：
P 402 図版右上	<u>オニキツタ</u>	<u>カナリーキツタ</u>
P 408 6～9行目	入れ替え	<p>A. 若い茎は緑色～淡褐色. 花のない枝の葉は長さ15 cm 以下で3 から5 裂. 葉は堅く裂片は垂れ下がらない</p> <p>B. 若い茎, 葉柄, 花序の星状毛は赤褐色で6～8裂 (1) キツタ</p> <p>B. 若い茎, 葉柄, 花序の星状毛は白色で15～20裂し裂片は長い.. (2) セイヨウキツタ</p> <p>A. 若い茎は赤褐色を帯びる. 花のない枝の葉は長さ10～20cmに達し3裂するものが多い. 葉は柔らかく縁が下に垂れる (3) カナリーキツタ</p>
P 408 17～21行目	入れ替え	<p>→ (3) カナリーキツタ <i>Hedera canariensis</i> Willd. (syn. <i>Hedera helix</i> L. subsp. <i>canariensis</i> (Willd.) Coutinho 図p. 402 (1232) カナリー諸島, ポルトガル, 北西アフリカ原産で, 近年都市の緑化に多く使われている. 地表を這う形では開花しないが, 支持物に高く登ると開花するという. ●多方向・黄緑花・虫媒: 食散: 互生・単葉・全縁～3～5掌裂・常緑: 藤本(MM). 定着度: 7: 重要有害</p>

訂正箇所	誤	正
P 421 下28行目	<u>半常緑</u> ：低多年草	<u>連緑</u> ：低多年草
P 428 19行目	<u>連緑</u> ：高多年草	<u>冬緑</u> ：高多年草
P 440 上	・ <u>エゴノキ科</u>	・ <u>エゴノキ科(大場)</u>
P 445 25行目	中国原産で柿渋 <u>をを</u>	中国原産で柿渋 <u>を</u>
P 446 25行目	前川 <u>文男</u>	前川 <u>文夫</u>
P 449 29行目	月崎市民の森 <u>田辺盛光</u>	月崎市民の森 <u>田邊盛光</u>
P 449 下16行目	Y. <u>Hasegawa</u>	Y. <u>Hasegawa</u>
P 450 4行目	適応 <u>拡散</u> (Adaptive)	適応 <u>放散</u> (Adaptive)
P 450 17行目左端	(<u>太古庭</u>)	(<u>木古庭・キコバ</u>)
P 461 下18行目	県内では稀で市川市, 野田市, <u>寔津市などの湿地に限られ,</u> <u>保護が必要。</u>	県内では稀で市川市, 野田市, 市, <u>流山市, 君津市, 袖ヶ</u> <u>浦市, 佐倉市, 木更津市,</u> <u>茂原～八積(絶滅地を含む)</u> <u>が報告されている。</u>
P 470 図版右中段 オキナアサガオ	TNS546785 <u>アメリカ(谷城)</u>	TNS546785 <u>アメリカ</u>
P 498 図版左中段	ミズ <u>トラノオ</u>	ミズ <u>ネコノオ</u>
P 502 下24行目 右端	<u>図p. 498 (・1522)</u>	(・1522)
P 534 30行目	var. <u>peregrima</u>	var. <u>peregrina</u>
P 545 16行目	form. albida <u>Makino</u>	form. albida (<u>Makino</u>) <u>Ko</u> <u>miya</u>
P 545 22行目	<u>微</u> 多年草 (HH)	<u>低</u> 多年草 (HH)
P 545 35行目	<u>微</u> 多年草 (HH)	<u>低</u> 多年草 (HH)
P 562 8行目	E. 萼裂片の <u>間に付属物はない</u>	E. 萼裂片の <u>間は反り返って</u> <u>ボート形の付属物がある</u>
P 562 9行目	E. 萼裂片の <u>間は反り返ってボ</u> <u>ート形の付属物がある</u>	E. 萼裂片の <u>間に付属物はな</u> <u>い</u>
P 569 図版右下写真	(<u>大場</u>)	(<u>上野</u>)

訂正箇所	誤	正
P 577 18行目	・ <u>紅紫花</u> : 高2年草	・ <u>淡紅紫花</u> : <u>中～高</u> 2年草
P 577 30行目	<u>高</u> 多年草 (H). 定着度: <u>25</u> .	<u>中～高</u> 多年草 (H). 定着度: <u>14</u> .
P 577 39行目	<u>中</u> 多年草 (H).	<u>中～高</u> 多年草 (H).
P 578 5行目	<u>中</u> 多年草 (H).	<u>中～高</u> 多年草 (H).
P 578 20行目	<u>中</u> 多年草 (H).	<u>中～高</u> 多年草 (H).
P 578 30行目	単葉・ <u>鋸歯</u>	単葉・ <u>鋸歯～羽裂</u>
P 578 39行目	しかし、「 <u>アズマヤマアザミ</u> 」	しかし、「 <u>カズサヤマアザミ</u> 」
P 578 下13行目右端	(<u>アズマヤマアザミ</u> の図)	筆者の見解では (<u>カズサヤマアザミ</u> の図)
P 578 下12行目右端	(<u>アズマヤマアザミ</u> の図)	筆者の見解では (<u>カズサヤマアザミ</u> の図)
P 578 下10行目右端	<u>淡紅紫花</u> : 虫媒: 風散	<u>紅紫花</u> : 虫媒: 風散
P 578 下9行目	<u>高</u> 多年草 (H). 定着度: <u>25</u> .	<u>中～高</u> 多年草. 定着度: <u>24</u> .
P 579 1行目	<u>高</u> 2年草 (H). 定着度: <u>24</u> .	<u>高～巨</u> 2年草. 定着度: <u>23</u> .
P 579 12行目右端	低湿地から「 <u>6月中旬～7</u>	低湿地から、 <u>6月中旬～7</u>
P 579 13行目	<u>淡紅色花</u> のタカアザミ	<u>花色の淡い</u> タカアザミ
P 579 13行目	調査会1996)「 <u>が報告</u>	調査会1996)「 <u>ウスイロタカアザミと仮称したい</u> 」 が報告
P 579 21行目	<u>高</u> 2年草 (H).	<u>高～巨</u> 2年草 (H).
P 579 下25行目左端	連緑: <u>高</u> 多年草	連緑: <u>中～高</u> 多年草
P 579 下1行目	～連緑: <u>高</u> 多年草	～連緑: <u>中～高</u> 多年草
P 586 図版右下	<u>キダチコンギク</u>	<u>シロクジャク</u>
P 598 下16行目 右端	<u>図p.586</u>	削除
P 652 下3行目	<u>Hynes et Nielsen</u>	<u>Haynes et Nielsen</u>

訂正箇所	誤	正
P 672 表右 6 行目	<u>ナギイカダ属 Ruscus L.</u>	削除
P 672 3 行目	1. <u>ナギイカダ属 (クサスギカズラ科)</u>	1. <u>ナギイカダ属 (ナギイカダ科)</u>
P 674 下11行目	D. <u>葉の下面は平滑. 花糸は微細な突起がある</u>	D. <u>葉の下面は脈上に微細な突起がある. 花糸は平滑</u>
P 674 下10行目	D. <u>葉の下面は脈上に微細な突起がある. 花糸は平滑</u>	D. <u>葉の下面は平滑. 花糸は微細な突起がある</u>
P 684 図版左下	<u>タチシオデ</u>	<u>タチドコロ</u>
P 688 4行目	<u>葉は花のあとに出て冬を越し初夏に枯れる</u>	<u>葉は春と秋に見られ、それぞれ夏と冬には枯れる</u>
P 691 下4行目右端	<u>図p. 684</u>	削除
P 695 図版上中央	<u>ルリニワゼキショウ</u>	<u>オオニワゼキショウ</u>
P 695 図版右上	<u>ヒトフサニワゼキショウ</u>	<u>ルリニワゼキショウ</u>
P 695 図版右中段 図版右下	種名抜け <u>オオニワゼキショウ</u>	<u>オオニワゼキショウ</u> <u>ニワゼキショウ</u>
P 696 図版右中段	<u>トミサトクサイ</u>	<u>セイタカクサイ</u>
P 700 図版中央	<u>イヌノヒゲ</u>	削除(イヌノヒゲではない)
P 701 下17行目右端	追加	<u>図p. 684</u>
P 704 2行目右端	<u>図p. 695</u>	削除
P 706 7行目	(4) <u>トミサトクサイ (折目廣雄新称)</u>	(4) <u>セイタカクサイ</u>
P 706 14行目	(5) <u>マツカサコウガイゼキショウ (新称)</u>	(5) <u>ニセコウガイゼキショウ 別名タカナベイ. マツカサコウガイゼキショウ</u>
P 706 図版	<u>マツカサコウガイゼキショウ</u>	<u>ニセコウガイゼキショウ</u>
P 708 25行目	<u>夏緑</u> : 中多年草	<u>連緑</u> : 中多年草
P 709 27行目	1998. 09. 25 <u>松平喜代</u>	1998. 09. 25 <u>松平喜美代</u>
P 711 28行目右端	<u>図p. 700</u>	削除

訂正箇所	誤	正
P 773 図版中央から下へ3点	名称脱落	3点共に <u>ユニクキビ</u>
P 783 下19行目左端	<u>1</u> 年草,	<u>多</u> 年草,
P 783 下17行目	: 風媒: <u>着</u> 散	: 風媒: <u>重</u> 散
P 783 下16行目左端	低多年草 <u>(H)</u> ,	低多年草 <u>(H ~ Ch)</u> ,
P 797 図版中央 アズマネ ザサ右の大きな葉1枚	名称脱落	<u>ダイサンチク</u>
P 801 図版下中央	<u>ヤマト</u> ミクリ	<u>ナガエ</u> ミクリ
P 805 下10行	<u>(3)</u> ダイサンチク	<u>(2)</u> ダイサンチク
P 807 33行目	104. ヤダケ属 <u>Psuedosasa</u>	104. ヤダケ属 <u>Pseudosasa</u>
P 807 38行目	(1)ヤダケ <u>Psuedosasa</u>	(1)ヤダケ <u>Pseudosasa</u>
P 814 下5行目右端	<u>図p. 801</u>	削除
P 830 下11行目	<u>土屋守</u> ・・149-150 重複	重複部分を削除
P 870 図版右上	テンツキ	削除 (テンツキではない)
P 871 図版右中	<u>ヒメハリイ</u>	<u>クロハリイ</u>
図版右下	<u>クロハリイ</u>	<u>ヒメハリイ</u>
P 892 図版 コゴメガヤツリ とカヤツリグサの小穂写真	写真の位置	<u>双方を入れ替える</u>
P 897 下16行目	定着度: <u>25</u>	定着度: <u>23</u>
P 908 左下	<u>成東教委</u>	<u>(成東教委)</u>
P 911~P 920 ラン科内の記述	<u>托葉</u>	<u>苞葉</u>
P 914 21行目	暗い林床に生える <u>夏緑性の小</u> <u>草, 細い地下茎がある。</u>	暗い林床に生える <u>小</u> で <u>細</u> <u>い地下茎がある。葉は春</u> <u>緑。</u>
P 1010 分布図3段目	1232 <u>オニキツタ</u>	1232 <u>カナリーキツタ</u>
P 1143 左2行目	[<u>照葉林</u>]	[<u>照葉林</u>]
P 1143 右下31行目	<u>ハマ</u> ス群目	<u>ハマ</u> ナス群目

訂正箇所	誤	正
P 1144 右7行目	ミミカキグサー <u>イヌノイハナ</u> ヒゲ群目	ミミカキグサー <u>イヌノハナ</u> ヒゲ群目
P 1144 右9行目	ホシクサー <u>イヌノイハナ</u> ヒゲ群目	ホシクサー <u>イヌノハナ</u> ヒゲ群目
P 1162	和名索引に掲載なし	<u>アマナズナ</u> ……234
P 1169 ツタバウンラン属	索引の位置3列下 <u>15</u> 行目	索引の位置3列下 <u>47</u> 行目
P 1169 ツリガネニンジン属	索引の位置3列下 <u>2</u> 行目	索引の位置3列下13行目
P 1170 1列26行目	トガリバ <u>ツクサ</u>	トガリバ <u>ツメクサ</u>
P 1172	和名索引に掲載なし	<u>ヒメコウガイゼキショウ</u> … <u>705</u>
P 1179 左下3行目	倉俣武男 佐倉 <u>野草の会</u>	倉俣武男 佐倉 <u>野草会</u>

★『千葉県植物誌』については、執筆者らによって今後も新しい情報が千葉県植物誌資料のウェブサイトに掲載される予定とのことです。現段階でのURLは以下のとおりです。

<http://flora-chiba.hp.infoseek.co.jp/>